

地元中学生チーム2位

県内外から多数参加 豊川リレーマラソン

「豊川リレーマラソン2019」が2日、豊川市陸上競技場を発着点とするコースで開かれ、県内外から418チーム3502人が出走した。東三河の中学生たちで結成された初出場の「厨二病(ちゅうにびょう)～リターンズ～」が、2時間10分13秒で2位に輝いた。モデルの西谷綾子さんもゲストランナーとして盛り上げた。

(由本裕貴)



1チーム4～10人で性別や年代、家族や職場仲間などで構成されるチームが、フルマラソンと同じ42・195キロに挑戦。おそろいのシャツやかぶり物、コスプレなどで連帯感を高め、たすきをつないだ。

若い力が躍動した。いずれも中学3年の夏目拓さん(豊橋南陽)、野村慈音さん(蒲郡・形原)、藪田虎志朗さん(小坂井)、山本真大さん(御津)、安藤翔吾さん(豊川東部)、金田健慎さん(豊橋中部)、柴田侑さん(豊橋・南陽)の7人がリレーした厨二病は、優勝した刈谷市の



出場者と走る西谷さん(右から2人目)=同

走り終わっておいしい体験

リレーマラソン会場 豊川いなり寿司作り

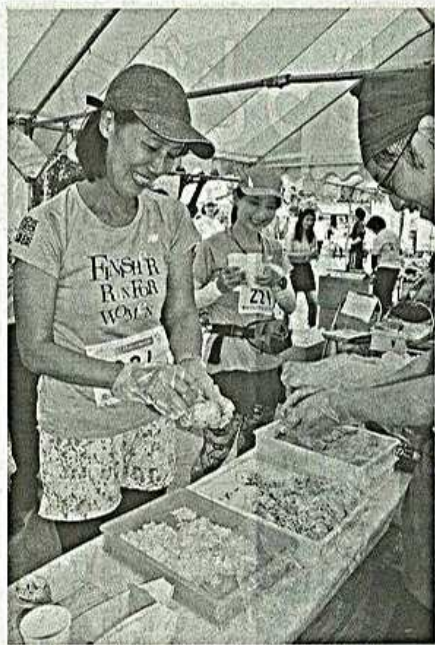
豊川リレーマラソンが開かれた市陸上競技場で2日、NPO法人「みんな豊川市」をもちあげ隊による豊川いなり寿司作り体験が初めて行われた。

もちあげ隊の隊員や高校生ボランティア11人が迎える中、走り終わったランナーたちが次々と訪れ、酢飯を油揚げに詰め、3個のいなり寿司を作り、味を楽しんだ。五目、金ま、白いなりと味は3種類で、全部で2000個を提供した。

チーム「佐奈川RC」

もちあげ隊がランナーとして出場した田中景さんと濃野永真子さんは「豊川市と言えはいなり寿司なので参加しました。油揚げにうまく入らなかつたり、すぐ破れたりして意外と難しかったです」と振り返っていた。

(由本裕貴)



豊川いなり寿司作りを楽しむランナーたち=豊川市陸上競技場で

華麗なフラダンス披露

新城で教室生ら380人が発表



フラダンス教室のカーブアンホマリーエ(高木よし子主宰)の発表会「アロハ エンジョイ」が2日、新城文化会館で開かれた。380人が参加し、練習成果を披露した。

教室は新城市はじめ豊川、豊橋、蒲郡市、静岡県浜松市の23会場で行っており、毎年この時期に発表会を開いている。今年

は3歳から80歳代までが参加した。インストラクターを含めた18人がオープニングを務めて開演。各教室ごとステージに上がり、華麗なステップでフラダンスやタヒチアンダンスを踊りあげた。

(安藤聡)

一般チーム「IARC」に約2分半差に迫るタイムでフィニッシュした。全員が県大会出場を決めている有望株で、生徒らが自発的にチームを結成し、絆を深めるために出場した。アンカーの藪田さんは「楽しく、最後まであきらめずに走れた」と振り返り、仲間について「日頃はみんなライバル同士。それぞれが全国大会への弾みになった」と話した。

ニューバランスのランニングアンバサダーを務める西谷さんは東海理化SEC生技部のメンバーと2キロを走るなど、出場者とのひとときを楽しんだ。優勝したIARCには副賞で市ふるさと納税返礼品のとよかわアユ10キロも贈られた。